

* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、農畜産物・水産物卸売業、建築材料卸売業、その他卸売業が大きく悪化傾向を強め、食料・飲料卸売業、紙・紙製品卸売業は横ばいで推移しました。一方、機械器具卸売業で悪化傾向を弱めました。全体としては-84と前期に比べ11ポイント悪化傾向を強めました。売上額は30ポイント、収益は28ポイントと大きく減少傾向を強めました。価格面では、販売価格は8ポイント下降傾向を弱め、仕入価格は7ポイント上昇し、上昇傾向に転じました。在庫は6ポイント過剰感を強め、資金繰りは3ポイント窮屈感を強めました。残業時間はわずかながら1ポイント減少傾向を弱め、人手は9ポイント過剰感を弱めました。設備の状況は6ポイント上昇し、ほぼ適正となりました。設備投資の実施は、車両を中心に17%と前期に比べ1ポイント増加しました。

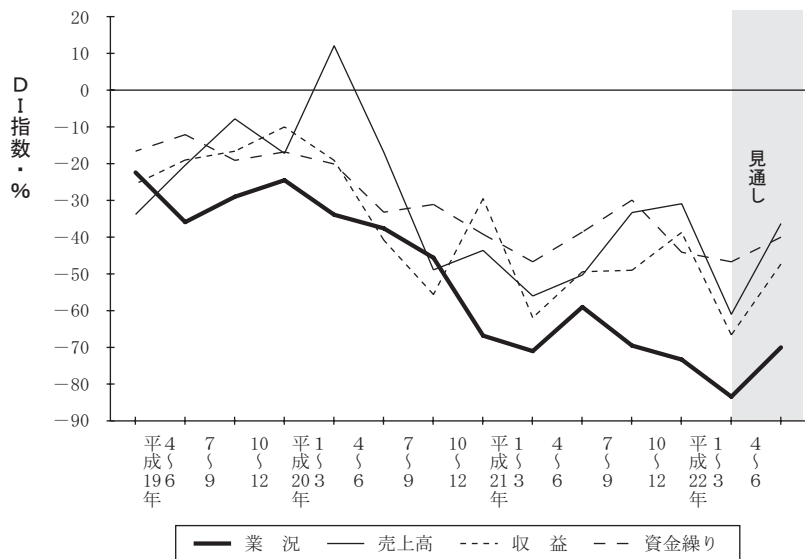
来期の見通し

業況は、機械器具卸売業、建築材料卸売業で大きく悪化傾向を弱め、その他の卸売業では横ばいで推移するとみています。全体的には-70と今期に比べ14ポイント悪化傾向が弱まり、改善の兆しとなりそうです。売上額は25ポイント、収益は20ポイント大きく減少傾向を弱めそうです。価格面では、販売価格は14ポイント下降傾向を強め、仕入価格は16ポイント下降し、下降傾向に転じるとみています。在庫は7ポイント過剰感が弱まり、資金繰りは7ポイント窮屈感が弱まるとみています。残業時間は12ポイント減少傾向を強め、人手は横ばいで推移するとみています。設備の状況は、今期同様ほぼ適正のまま推移しそうです。設備投資については車両で8%の先が実施予定とし、今期に比べて9ポイント減少するとみています。

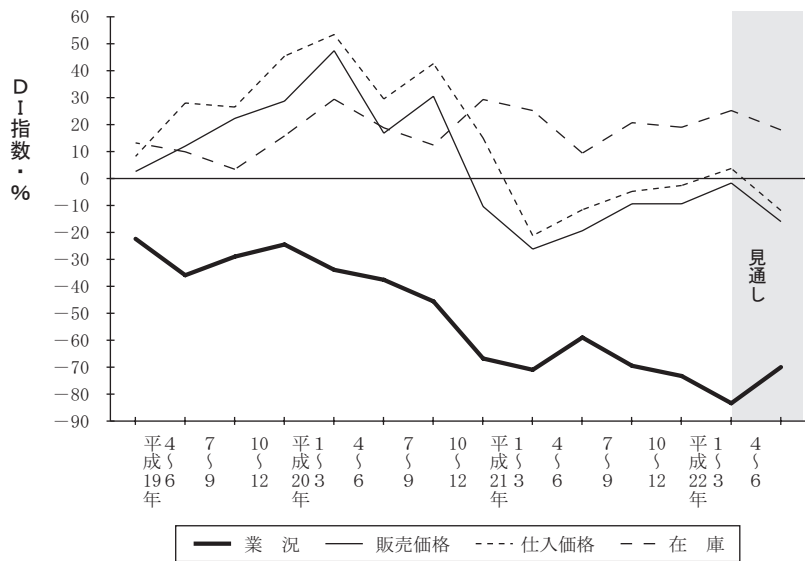
調査員のコメント

- 公共工事の発注が未定であるが、業者へのセールス等の経営努力を継続している。しかし結果が出るには時間がかかる。
(建設資材卸売業)
- 社長の談話。「景気だけのせいにはしたくない。自ら営業努力し、経営努力していく」とのこと。
(自動車用品卸売業)

景況の推移

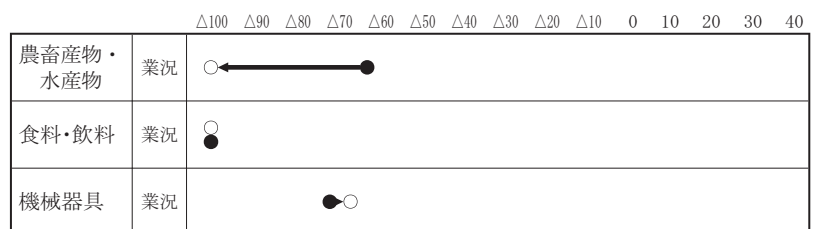


主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期 22年1月～3月) / 前期 21年10月～12月)



経営上の課題点	1位	20社 (83%)
	売上の停滞・減少(1)	20社 (83%)
	同業者間の競争の激化	14社 (58%)

当面の重点経営施策	1位	19社 (79%)
	経費を節減する	19社 (79%)
	販路を広げる	12社 (50%)

*()は前回順位 * 対象企業総数は24社